

科目名	基礎ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	澤口 晋一		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-1-310015	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的・テーマ	<p>基礎ゼミ1と基本的には同じ内容を継続します。</p> <p>1. 国際学部の学生として、日々世界で起こっている様々な出来事や問題に対して常に関心を抱き続けられる気持ちと好奇心を醸成する。</p> <p>2. 初年次教育：大学での学び方を少しずつ身につける（文献・資料の探し方、テキストの読み方、発表の仕方、文章の書き方等々）。</p>				
内容	<p>1. この1年間で毎日、新聞に目を通すという習慣をまずは確実に身につける。そのために、各自が当該週の新聞記事の中から特に重要だと感じた、あるいは関心をもった記事を国際欄を中心に4編選び、その内容を指定されたフォーマットに基づいて記載し論評する。ゼミでは、前半の約50分間は毎回1グループ4～5人となってその記事を紹介し、質疑を行う。記入した用紙は毎回回収し、評価を記入したうえで返却する。これを1年間毎週実施する。</p> <p>2. 前期は、いわゆる「初年次教育」に関連した内容を毎回40分ほど学びます。大学での学びは、高校までの受身的な態度では対応できない部分が多々あります。自ら問題意識をもってそれを解決するのはどうすればよいのかを考えることが必要になります。そのためには一定の学ぶためのスキル（例えば、文献・資料の探し方、テキストの読み方、発表の仕方、文章の書き方等々）が必要になります。それをこのゼミですできるだけ多く身につけてもらいたいと思っています。</p> <p>3. 後期は、みなさんが関心を持ついくつかの問題を取り上げて、グループワーク形式でその問題を掘り下げていきます。最終的にはグループごとにパワーポイントにまとめて発表します。</p> <p>なお、上記のゼミを遂行するためには、ゼミ員は毎週のゼミの準備に予習・復習含めて4時間の学習を必要とします。</p>				

学修到達目標	①主要な国際問題については、その概略を把握し、国際理解の観点から自分の考えをある程度述べるようになること。 ②大学で学ぶためのいくつかのスキルを身に着けること。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	週2つの新聞記事（主に国際関係）を指定フォーマットに従って記述する。わからないことについては、新聞以外の資料を使い理解を得る。一つの記事に対して1時間程度の時間（計2時間）が必要となる。
【復習】時間・内容	新聞記事レビューの紹介での質疑においてうまく答えられなかったことを、新聞以外の資料を使って調べ、理解を深める。2時間程度の必要となる。

成績評価	
評価基準・方法	毎回の新聞記事報告の提出とその内容評価、口頭報告の内容および取り組み姿勢など。
フィードバック方法	毎週みんなが行う2本の新聞記事のレビューに対し、コメントと評価を与える。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	グループワーク/プレゼンテーション

教科書/参考書	・新聞（新潟日報、朝日新聞、毎日新聞等）
---------	----------------------

受講上の留意点等	このゼミでは、1年間毎日新聞を読むことが必要となります。継続は力なりです。なお、新聞は自宅で購読することが望ましいですが、図書館にも各種新聞が完備されていますので、必ずしも自宅で購読していなくても特に問題はありません。
JABEE	

科目名	基礎ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	臼井 陽一郎		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-1-310015	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的・テーマ	<p>ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』とサミュエルズ『3.11震災は日本を変えたのか』を読む</p> <p>日本について考えるための専門書を講読します。上記二冊はどちらも名著です。じっくりと読み込んで、日本の現在のあり方を考え抜いていくための思考の基礎を、このゼミで築いていこうと思います。</p> <p>以上の専門書講読をベースにしつつ、その他に、大学で学習を進めていくための思考のあり方について反省的に考え抜いていくためのさまざまなグループワークを実施します。また文章を書けるようになるために、文体を意識し磨いていくためのトレーニングも用意します。</p>				
内容	<p>毎回、3~4人が順番に担当ページを紹介し、読み手としての視点を提示したうえで、討論者2~3人が問題提起していくという、オーソドックスな輪読にしていきます。必要に応じて、教員が解説していきます。</p> <p>授業で取り上げたテキストのカ所について、毎回400字でコメントする文体トレーニングも実施します。</p>				

学修到達目標	日本の現在のあり方を考え抜いていく思考の基礎を獲得すること。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	指定テキストの読みおよび400字課題。2時間ほど。
【復習】時間・内容	指定テキストの読みおよび400字課題。2時間ほど。

成績評価	
評価基準・方法	テキスト指定カ所へのコメントをプレゼン 50% そのコメントを400字で文章化 50%
フィードバック方法	毎回授業後にゼミLINEグループに講評を掲載。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	反転学習／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション

教科書/参考書	ジョン・ダワー 『敗北を抱きしめて』 R・J・サミュエルズ 『3.11震災は日本を変えたのか』
---------	--

受講上の留意点等	教員が解説します。基礎知識は必要ありません。ゼミは、自分のことばで感じたこと、考えたことを表現するトレーニングの場だと、意識してみてください。
JABEE	

科目名	基礎ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	熊谷 卓	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-1-310015	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的・テーマ	ゼミテーマ・タイトル 「法律学ってけっこう役に立つ!？」				
内容	<p>●新入生への一言 Congratulations on passing the entrance exam. さて、大学にはゼミナール(ゼミ)という時間があります。ここでの主役は先生ではなくて参加しているすべての学生です。ですから、ゼミの時間を楽しくするもしないも、主役である皆さんにかかっているといてもよいでしょう。ゼミでどうか「スター」になってください。</p> <p>●内容(目的やねらいも含む) 賃貸借契約、遺言、黙秘権、表現の自由、国際条約、ということばに共通するものはなにか、と問われれば、なんと答えるでしょうか? 「法」とか「約束」という答えを想定することができるとは思いませんか。より細かく見れば、それぞれ民法(借地借家法)、刑法(刑事訴訟法)、憲法、国際法といった具合です。そして、わたしたちは実は様々な場面で、この法と関わっているということが出来ます。</p> <p>ところで、ほとんどのみなさんは法的にみて、「未成年」の年に1年生ゼミナールに参加することになります。2年後には、およそすべての法律の適用対象となってしまいます。原則として、もう少年(少女)Aではありません。その前にできるかぎり、法というものの考え方に接しておくことは決して無駄ではないとは思いませんか。</p> <p>そこで、このゼミナールは、各ゼミ生の法的な思考をより深めさせることを目的とし、また目標としています。</p> <p>具体的にいうと、同性間の結婚、死刑廃止の是非、男女区別の合法性(レディース・デイとは男性に対する差別か、適法か)、美容整形に納得がいかないときの慰謝料、児童の権利といったトピックや問題について法という視点を通して検討してゆきたいと考えています(そのほか、学生の希望テーマも取り上げます)。</p> <p>難しそうに思えますが、できるだけ具体的に検討します。どうか、安心してください。また、皆さんにとってゼミを受けることは初めての経験だと思いますので、報告のやり方、レポートの書き方については、十分に時間をかけて説明をする予定です。</p> <p>その他、学生のみなさんの希望に応じて、英語(洋楽を聞き、その歌詞から学ぶとか)や初級のフランス語に親しむべく、英語やフランス語を少し学習することもあるかと思えます。</p> <p>また、時間が許せば、これまで滞っていたニュージーランドの抱えている諸問題やトピックについても考察できたらとも考えています。</p> <p>まずは、指定したテキスト(文献)をゼミ生全員で読み、それについて議論をしてもらおうということを考えています。その後、各ゼミ生が自分で選択したテーマを素材に、報告をし(自由報告)、それについてゼミ生全員で検討するというかたちでゼミを進めます。</p> <p>レポートの提出を求めることも考えています。</p>				

学修到達目標	本ゼミを通じて当該学年の学生に求められるスキルが十分に身につく。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	各回のテーマ（アウトライン）について十分に予習のこと（1時間）
【復習】時間・内容	各回のテーマ（アウトライン）について十分に復習のこと（1時間）

成績評価	
評価基準・方法	報告やレポートの良し悪し（50パーセント）、ゼミへの参加度（50パーセント）を基準に成績をつけます。
フィードバック方法	質問については遠慮なく聞いてください。 レポートや課題についても個人的な指導をします。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	松井ほか『初めての法律学』有斐閣 『わたしたちと法』現代人文社 円道祥之『空想科学裁判』宝島社 など
---------	--

受講上の留意点等	<p>上にみた「内容」でとりあげたような諸問題に関心がある学生の参加を求めます。これらの問題について自分なりの意見をしっかりと提示できるよう、十分なりサーチをし、その上でなにか問題を解決・調整してやろうというやる気をもった学生を大歓迎します。</p> <p>繰り返しになりますが、報告のやり方、レポートの書き方については、十分に時間をかけて説明をする予定です。ですので、どうか安心してください。</p> <p>ちなみに、ゼミでの食事会(未成年者が対象なので)を行うこともあります。</p> <p>楽しいゼミにしたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。</p>
JABEE	

科目名	基礎ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	小山田 紀子		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-1-310015		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	国際社会を見る目を養おう				
内容	<p>後期のこのゼミナールでは、世界の若者について考えていきたいと思ひます。フランスの移民暴動やその後の大学生を中心としたデモ活動による政治参加など、フランスの若者の活動を見ていきます。またアラブの春と呼ばれる中東の変革の波の契機となったチュニジアのジャスミン革命の様子を映像を交えて勉強します。これらの民主化の動きは若者が中心に進められます。</p> <p>一方、日本でも格差問題や雇用問題など、深刻な問題が顕著になってきています。日本の若者にも世界の若者たちとの共通点があると言えるでしょう。日本という国の歴史と現在について学び、今の日本の課題とこれからの日本人の生き方を考えていきたいと思ひます。後期は、新聞記事なども活用して、時事問題についても皆さんと議論していきたいと思ひます。レポートや論文の書き方、プレゼンテーションの方法についても指導します。</p> <p>第1回目のゼミでテキストを決定し、これを全員で輪読します。毎回報告者は、担当の箇所を読んでレジュメを作成してきて発表します。それに対して、他の学生も質疑応答して議論に参加します。テキストを読み終えたらレポートを作成してもらいます。これらを通して、本の読み方、議論の仕方、レポートの書き方など、基本的な勉強の方法を学びます。</p>				

学修到達目標	テキストを輪読することによって、本の読み方と社会科学の見方を学びます。ゼミで発表したり議論したりすることによって、相互理解が深められるようになります。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	予習は、テキストの次週取り上げる章を読んでおくこと。(2時間が必要)
【復習】時間・内容	復習は、ゼミで行ったテーマについて、ふりかえってノートをまとめ、理解を深めます。

成績評価	
評価基準・方法	ゼミでの発表の内容、レポート、出席状況とゼミ活動に積極的に参加しているか 等により評価する。ゼミ選択上のアドバイス 大学生生活にも慣れてきた後期においては、ゼミナールの中での学生同士の交流も進めていきたいと思ひます。ゼミでの発表に当たっては学生の皆さんにも司会をしてもらったり、他学年のゼミナールとの合同ゼミなどを試みたいと思ひます。
フィードバック方法	レポートの講評を発表します。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	使用予定テキスト 入江昭『平和のグローバル化へ向けて』、小熊英二『日本という国』、山本三春『フランス ジュネスの反乱』(朝日新聞社)、宮島喬『ヨーロッパ 市民の誕生』(岩波新書)、水谷周編著『アラブ民衆革命を考える』(国書刊行会)等を考えていますが、テキストは未定。
---------	---

受講上の留意点等	<p>積極的にゼミ活動に参加することを期待します。</p> <p>各回、テキストを学生で分担して輪読する。発表する学生はレズメをつくってきて発表し、他の学生は予定の章を読んで、質問したり議論する。発表する学生は準備に3時間、議論を考えてくる学生は2時間の予習が必要である。テキストは2~3冊を考えているので1冊読み終えるごとに、レポートを書いて提出する。そのための時間は3~4時間を必要とする。</p>
JABEE	

科目名	基礎ゼミナール2	単位数	2単位	学期		後期	
担当教員	山田 裕史		実務経験の有無		○		
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー				
ナンバリング	X-21-B-1-310015		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体的問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること				
授業の目的・テーマ	<p>(1) わたしたちの日常生活と国際協力・SDGs (2) 大学で学ぶための知的技法の習得</p>						
内容	<p>このゼミでは、次の2つについて学びます。</p> <p>(1) 国際協力・SDGs</p> <p>なぜ豊かな国と恵まれた人々が、遠くの見ず知らずの貧しい人々を助けるのでしょうか。また、どのように助けるのでしょうか。グローバル化が進んだ世界に生きる市民として、私たち一人ひとり、日常生活のなかでどのように国際協力にかかわることができるのでしょうか。</p> <p>このゼミでは、国際協力に関する文献やドキュメンタリー、ワークショップを通じて、国際協力に関する基礎と、大学を含む日常生活で実践できる身近な国際協力について学び、上記の問いについて考え、議論し、行動します。</p> <p>今年度は、とくに「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」について基礎から学びます。SDGsとは、貧困や気候変動、人種やジェンダーに起因する差別などの地球規模の問題・課題を、国際社会が協力して2030年までに解決しようとするものです。SDGsは、よりよい未来を目指すための世界共通の17の目標で構成されています。</p> <p>また、希望者がいれば、カンボジアまたはベトナムをフィールドに国際協力の現場を訪問する、スタディ・ツアーの実施も検討します。</p> <p>(2) 大学生として不可欠な学びの技法</p> <p>大学で学ぶうえで大切なことは、暗記した内容を試験で答えるという高校までの学びとは異なり、自ら問題を見つけ、それを整理して、自分なりに考えて答えを導き出す能力を身につけることです。</p> <p>このゼミでは、講義でのノートの取り方、図書館での文献・資料など情報の探し方とその整理の仕方、プレゼンテーションの仕方、レポートの書き方など、大学生として不可欠な学びの技法を、グループワークを通じてじっくり、丁寧に身に付けます。これらは、大学での学びに必須となる「問いを立てて、調べ、考え、表現する」というプロセスの初歩的なトレーニングと位置づけられます。</p> <p>人前で話すことやグループワークが苦手という人もいでしょう。しかし心配はいりません。このゼミでは、一人ひとりがファシリテーションの技法を習得し、大学生活だけでなく実社会でも通用するコミュニケーション能力を身に付けます。</p> <p>(1) 文献講読・ドキュメンタリー鑑賞と討論、ワークショップ、(2) 各自の研究に関するプレゼンテーション、を組み合わせで行います。また、このゼミで学んだ技法をもとに学期末にレポートを執筆します。</p> <p>ほぼ毎回、3~4人の少人数のグループにわかれて、アクティブ・ラーニング型の授業を行います。つまり、いつも一緒にいる友達以外にも、たくさん会話や対話することになります。コミュニケーションが苦手という人もいますが、社会に出たら、いつも気の合う人とだけ一緒にいることはできません。このゼミは、コミュニケーション能力を高めるというトレーニングも兼ねています。最初は緊張すると思いますが、心配はいりません。一人ひとりが安心して参加できるような雰囲気をつくっていきます。</p>						

学修到達目標	国際協力・SDGsに関する基礎的知識が身につくとともに、日常生活のなかで実践できる。 大学で学ぶための知的技法が身につく。
実務経験との関連性	国際協力NGOでプロジェクトに従事した経験を授業内容に反映する。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。テキストの指定箇所を精読する。
【復習】時間・内容	2時間。テキストの不明点を理解する。

成績評価	
評価基準・方法	(1) 出席、(2) 文献講読・ドキュメンタリー鑑賞と討論の内容、(3) プレゼンテーションの内容、(4) レポートの内容、をもとに総合的に評価します。
フィードバック方法	プレゼンテーションに対するフィードバックとして、評価シートにもとづく講評を行います。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート/グループワーク/プレゼンテーション/実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	南博『SDGs：危機の時代の羅針盤』岩波新書、2021年 世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック』5訂版、世界思想社、2021年 その他、国際協力に関する基礎的な文献を適宜、配布します。
---------	---

受講上の留意点等	<p>本学には、先進国と途上国の食の不均衡の問題に取り組むTFT-NUISや、フェアトレード推進団体NUIS FT、SDGs推進団体Rainbow World Projectなどの国際協力・SDGs推進団体があり、このゼミで学んだ学生たちが中心となって国際協力やSDGsを実践しています。また、学外でも、万代アースフェスタへの出展、新潟の国際協力NGOが一堂に会する国際協カイベントの企画や運営、岩室地域でのローカルSDGsの実践などに取り組んでいます。一緒に活動したいという意欲のある学生の履修を歓迎します。</p>
JABEE	

科目名	基礎ゼミナール2	単位数	2単位	学期		後期	
担当教員	越智 敏夫		実務経験の有無		×		
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー				
ナンバリング	X-21-B-1-310015		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること				
授業の目的・テーマ	<p>世の中について考えるとはどういうことか？ ……言いかえれば、 他人の幸福や不幸と自分のそれとは関連するのか？</p>						
内容	<p>【新入生の皆さんへ】 本当は別のことをしたいのだけれど、でも才能とかお金とか、いろんな制約があるので、今はこうしてここでつまらない人生を送っているんだ、とは絶対に考えないほうが良いと思います。そうやって自分をだます言い訳ばかり考えているうちに、本当にゴミみたいな人間になっていくんじゃないでしょうか。「今ではないつか、ここではないどこか」における人生ってのが存在するのなら、誰も苦勞はしてないし、みんな、もっともっとおちやらけてるはずでしょう。 以上のことを前提にして【ゼミ内容】を少しまじめに書くと、ものを読み、考え、議論し、それを文章にまとめる、という一連のことをします。当たり前といえば当たり前のことをするわけです。しかしこれは大袈裟に言えば、共同で知的訓練をつむという作業です。中心になるのは議論をするということですから、黙っていても単位はもらえるだろう、と思う人は来ない方がいいです。 そして【何について議論するか】という世の中についてです。なんでまた自分以外のことについて考えないといけないかと言うと、それが結局自分の幸福について考えることになりまし、また自分自身を幸福にすることにもつながるはずだからです。その意味で言えば、新聞を読まない人は絶対に幸福になれません。その理由を考えるゼミでもあります。ただし、ゼミでの議論がいくら盛り上がりながらも、各自の目的意識を欠いては、ただの「お遊び」でしかありません。他はいつでもいいけれど、現代社会のここだけは絶対許せない、という獣のような批判精神ある学生の参加を期待します。 毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。 レポートや論文の書き方、プレゼンテーションの方法についても指導します。</p> <p>特定のテーマに関する論文や記事、書籍を全員で読んで、その内容について議論します。全体の進行を担当する「司会」、内容の要旨を報告する「レポーター」、その内容を批判する「コメンター」を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのみつつの役割を順番に担当します。数回でひとつのテーマを終了する予定です。終了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。</p>						

学修到達目標	テキストを読んだうえで自分の考えをまとめ、誰かにていねいに伝え、その反応について理解できるようにする。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間 テキストの事前講読と意見の整理
【復習】時間・内容	2時間 ゼミナールでの議論の総括と意見のさらなる整理

成績評価	
評価基準・方法	ゼミナールですから出席を重視します。各セメスター、3回までは欠席しても単位を出しますが、それ以上欠席すると単位は出しません。欠席の理由は問いません。バイトだろうが、風邪だろうが、欠席は欠席です。
フィードバック方法	LINEなどの意見交換ツールなどにより、ゼミナール終了後もフィードバックを常に維持する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート/グループワーク/プレゼンテーション

教科書/参考書	ゼミ参加者と相談して決めます。
---------	-----------------

受講上の留意点等	ま、これも自分をだまさないことでしょう。本当は遊びたいのに、きついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そのところをよくよく考えてください。
JABEE	

科目名	基礎ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	瀬戸 裕之		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-1-310015		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体的問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	東南アジアについて学ぼう-地域形成と日本とのつながり-				
内容	<p>本ゼミでは、東南アジアの地域形成を学びながら、日本とアジアについて考えることを目的とします。</p> <p>東南アジアは、現在、世界の中でも経済発展が目覚ましい地域であり、日本企業も多く進出しています。また、毎年、多くの観光客が訪れており、日本との関係が深い地域です。さらに、ASEAN共同体など国境を越えた経済協力が進みつつあり、今後の展開が注目されています。</p> <p>一方で、東南アジアの多くの国が、かつて植民地として外国に支配された経験があり、1990年代になるまで冷戦下で激しい戦争を経験した紛争地域でした。さらに、冷戦後に経済発展が進みつつも、民主化や人権の保障には、まだ多くの課題を抱えています。</p> <p>今後、東南アジアは、どのような方向に発展していくのでしょうか。また、日本は、それにどのようにかかわっていくべきなのでしょうか。安全保障や経済関係という視点を超えて、東南アジアとの間でより深い関係をつくるためには、東南アジアがどのように形成されてきたのか、日本と東南アジアがどのような位置づけにあるのか、という点について、長期的な視点から考えてみるのが重要であると考えます。</p> <p>本ゼミでは、東南アジアに関する本（新書）を一緒に読みながら、東南アジアの地域形成と日本とのつながりに関する理解を深めたいと考えています。</p>				

学修到達目標	後期ゼミの前半では、岩崎育夫著『入門 東南アジア近現代史』（講談社現代新書）を読みます。学生の間で担当を決めて、担当する部分についてレジュメを作成して発表してもらいます。その後、学生の間で質疑応答を行います。後半は、学生がグループに分かれて、関心があるテーマについて調べて、発表してもらいます。この作業を通じて、東南アジアの地域形成や東南アジアと日本の関係に関する基礎知識を得ると同時に、ゼミ発表を通じて、プレゼンテーションの方法について身につけることができます。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。ゼミで行う活動について、関連する情報を事前に調べ、目的と課題を理解する。
【復習】時間・内容	2時間。ゼミで行った活動の要点を整理し、資料を読み直して復習する。

成績評価	
評価基準・方法	学生によるゼミへの参加と報告内容に基づいて成績を出します。具体的には、(1)ゼミへの出席・授業態度(25%)、(2)担当した章に関する発表内容と取り組みへの姿勢(50%)、(3)ゼミでの発言やディスカッションへの参加(25%)、に基づいて評価します。
フィードバック方法	ゼミの各回において学生が行う発表に対して教員がコメントし、改善点を指摘し、解説を行います。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート/グループワーク/プレゼンテーション

教科書/参考書	岩崎育夫著『入門 東南アジア近現代史』（講談社現代新書）、講談社、2017年。 ※受講者には、必ず購入してもらいます。
---------	--

受講上の留意点等	本ゼミでは、これから4年間、大学で学習するための基本的な方法を学びます。できるだけ欠席をせずに参加して、ゼミ仲間や教員との交流とディスカッションを深めてください。
JABEE	

科目名	基礎ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	堀川 祐里		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-1-310015		国際学部C：新潟の地域社会にあって学術的素養を日々活かす方途をたえず探索する強い意欲をもち、これを具体化していくための社会関係構築能力を獲得していること		
授業の目的・テーマ	「働く」ことから日本経済を考える				
内容	<p>皆さんに質問です。皆さんは将来、「働く」予定ですか？「働かない」予定ですか？</p> <p>おそらくは多くの人が、大学を卒業したら、ある程度の期間は「働く」だろうと予想しているのではないかと思います。それでは、その皆さんは一体、なぜ「働く」のですか？大学で身につけた知識や能力を活かしてみたいと思うからでしょうか？子どもの頃からあこがれている職業があるからでしょうか？新潟県のため、日本社会のため、国際社会のために貢献したいからでしょうか？<男だから>あるいは<女だから>働くのでしょうか？</p> <p>さらに、もう少し考えてみると、「働く」のは家の<中>ですか？<外>ですか？「働く」と言っても、会社やお店でお金を稼ぐことだけが「働く」ではないですね。皆さんはどこで「働く」ことをイメージしているのでしょうか？そして、もし「働けない」時、皆さんはどうやって生活していったら良いと思いますか？</p> <p>このゼミは「働く」ことを通して日本経済について考えるゼミです。まず、皆さんには「働く」ことについて学び、「働く」ことについての自分自身の考えを持ってもらいたいと思います。経済学や日本経済論は、“とっつきにくい” “面白くない” “退屈な” “数字ばかりの” 勉強に感じている人もいるかもしれません。しかしながら、実は皆さんの現在の生活、そして将来の生活にとっても身近なものなのです。中でも「働く」ことはこの国で生活する多くの人の人生のうちに、必ず1度はやってきます。このゼミでは、その「働く」を学んでいきましょう。アルバイトをしている皆さん、おうちでは家事をお手伝い・担当している皆さん、そして将来社会人として「働く」ことを見据えて学んでいる最中の皆さんと、「働く」とは何か、一緒に考えていきたいと思っています。</p> <p>そのうえで、日本経済を「働く」ことという地点に立って眺めてみたいと思います。日本経済の理解というと、なんだか大それたことに感じるかもしれませんが、「働く」を通して、日本経済を理解していきたいと思っています。</p> <p>このゼミでは「働く」を題材とした文献の輪読や発表から、大学での学びの基礎である、文献の読み方、アカデミックな文章の書き方、グループでのディスカッション（議論）の仕方、みんなの前での発表の仕方、また連絡手段としてメールの使い方などを身に付けてほしいと思います。</p> <p>ゼミをはじめとして、大学での学びには、答えがない問い、もしくは答えが1つではない問いがたくさんあります。また、その答えがすぐにはわからず、もしかすると大学を卒業してから初めてわかるような難問もたくさんあります。基礎ゼミナールでは、それらに挑むための練習を行っていきましょう。</p> <p>※授業内で、数回、Webex等を用いた遠隔授業を実施します。具体的な日程は授業内で説明します。</p>				

学修到達目標	大学生としての過ごし方の基礎を身につけましょう。 主な学習方法は輪読（選定した本を履修者が順番に読んで担当箇所について発表し、分からないことについて調べ、疑問や考えを皆で議論すること）です。また、1年間を通して文章の作成、発表の練習も適宜行っていきます。このゼミでは、本の読み方、ディスカッションの仕方、アカデミックな文章の書き方を身につけられます。 なお、ゼミ履修者の様子を見ながら教員が判断し、食事会や他学年との交流会なども行います。たくさんの人との交流から、コミュニケーションスキルを磨くとともに、様々な考え方を知ってください。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。輪読（選定した本を履修者が順番に読んで担当箇所について発表し、分からないことについて調べ、疑問や考えを皆で議論すること）の準備として、指定された文献を読み、発表資料を作成してください。方法はゼミの中で説明しますので、安心してください。これまで1人では読んだことのないような難しい本も、みんなで読めば1冊読み切ることが出来る、という大学生の学びの面白さを体験してください。
【復習】時間・内容	2時間。輪読で扱った箇所で見かんだ疑問点について調べてきてください。次の週、みんなで疑問点についてディスカッションします。

成績評価	
評価基準・方法	履修者本人が担当する輪読の発表や、レポート作成についての、取り組みの姿勢や内容（50%） 授業内での発言や議論など、ゼミ全体への参加の姿勢や態度（50%） ※皆勤が原則ですので「出席」自体は評価の対象としないとともに、どのような理由の欠席についても咎めません。ただし、授業内での発言や議論など、ゼミに積極的に参加することが必須です。また、ゼミの運営に影響しますので、無断欠席は厳禁です。社会に出ていく準備段階として、大人のマナーも身につけてほしいと思います。
フィードバック方法	輪読の発表資料や、レポート課題については、適宜講評をおこないます。1年間かけて、創意工夫のある資料やレポートが書けるようにアドバイスをします。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート/グループワーク/プレゼンテーション

教科書/参考書	以下の書籍の中から、教員が2冊程度選定します。自分の分の書籍を各自購入してもらいますので、心づもりをしておいてください。 森岡孝二（2015）『雇用身分社会』岩波新書。 森岡孝二（2013）『過労死は何を告発しているか 現代日本の企業と労働』岩波現代文庫。 高橋祐吉・鷲谷徹・赤堀正成・兵頭淳史（2016）『図説 労働の論点』旬報社。 久原稔（2018）『「働き方改革」の嘘 誰が得をして、誰が苦しむのか』集英社新書。 今野晴貴・嶋崎量（2018）『裁量労働制はなぜ危険か 「働き方改革」の闇』岩波書店。 筒井淳也（2015）『仕事と家族 日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』中公新書。 労働政策研究・研修機構（2018）『非典型化する家族と女性のキャリア』労働政策研究・研修機構。 岩田正美（2007）『現代の貧困 ワーキングプア/ホームレス/生活保護』ちくま新書。 唐鎌直義（2012）『脱貧困の社会保障』旬報社。 阿部彩・鈴木大介（2018）『貧困を救えない国日本』PHP新書。 岩永理恵・卯月由佳・木下武徳（2018）『生活保護と貧困対策 その可能性と未来を拓く』有斐閣。 以上の他、このゼミにふさわしい書籍が新しく出版された場合は、その書籍を選定することもあります。
---------	---

<p>受講上の留意点等</p>	<p>大学での学びの重要な点は、“自分からつかみ取ろう”とする姿勢です。とくにゼミナールでは、教員が一方向的に講義を行う授業とは異なり、履修者の取り組みが、ゼミの運営に大きく影響します。ゼミの主役はゼミ生のみなさんであり、ゼミはみなさんが自分の意見や疑問をみんなと話す場です。履修者のみなさんの個性が、ゼミの色を作っていくといっても過言ではありません。このゼミでは、誰かと協力して勉強することを楽しみたいと思っているみなさんの履修を期待します。大事なことは、何事に対しても「なぜ？」をたくさん考え、そして、とにかく恥ずかしがらずにいっぱいしゃべることです。堀川の専門分野は、経済学（特に労働問題、社会保障・社会福祉、日本経済史）、ジェンダー、セクシュアリティに関するものです。4年生での卒業論文作成に当たり、これらの学問に興味を持っている人を歓迎します。</p> <p>ゼミをはじめとして、大学での学びには、答えがない問い、もしくは答えが1つではない問いがたくさんあります。また、その答えがすぐにはわからず、もしかすると大学を卒業してから初めてわかるような難問もたくさんあります。4年間の間に、そのような難問に1つでも多くぶち当たってください。</p> <p>本ゼミでは、輪読の仕方や、発表の仕方など、大学での学び方の基礎をゆっくりとじっくりと履修生みんなで学んでいきますので、履修前の段階で分からないことがあっても心配はいりません。“チャレンジ”が好きな人、“チャレンジ”に躊躇しない人の履修を期待します。また、今まではあんまり人と話したり、議論したりするのは得意ではなかったという人でも、「話してみたい」「議論してみたい」という意思があれば、是非履修してみてください。「自分も〇〇してみたい!」の気持ちをもつ人を歓迎します。</p> <p>※授業内で、数回、Webex等を用いた遠隔授業を実施します。具体的な日程は授業内で説明します。</p>
<p>JABEE</p>	